

科目名 (英)	キャリアデザインⅡ Career DesignⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、ゲスト講師を招き歯科医療業界の動向や就職に必要な歯科技工士免許取得に向けた対策授業を行う。						
目的	自らの将来像を明確にし、それを実現するために必要な情報を収集し学ぶ。問題解決力をコミュニケーションの実践を通じて養う。						
科目概要	歯科医療界の動向について諸事例を元に学び将来像を明確にする。問題解決力やコミュニケーション力を今後のキャリア形成に活用する。						
到達目標	・歯科医療界の動向について、その概略を記述することができる。 ・歯科医療界の動向を踏まえた、自らの将来像を説明することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 授業後に提出する8回分のレポートを100点満点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版）			事前事後 学習と その内容	【事前学習】インターンシップなど関連科目の積極的な受講を推奨する。 【事後学習】授業を踏まえて国家試験合格への心構えく進路決定を進めていくことを推奨する。		
参考図書	別途授業内で紹介する						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/3)	国家試験対策について	講義	歯科技工士として働くために必要な歯科技工士国家試験について理解し、国家試験対策の流れ、各自が行うべき対策について理解する。
2	キャリアセンターについて	講義	就職部門のキャリアセンターについて紹介を行う。 歯科医療業界に歯科技工士として就職するときにポイントとなる本校の就職活動の流れ、求人票の見方を紹介する。
3	技工士科昼間部合同授業	講義	歯科技工士科昼間部1年との合同授業を通して、コミュニケーション力を養う。
4	技工士科昼間部合同授業	講義	歯科技工士科昼間部1年との合同授業を通して、コミュニケーション力を養う。
5	技工士科昼間部合同授業	講義	歯科技工士科昼間部1年との合同授業を通して、コミュニケーション力を養う。
6	技工士科昼間部合同授業	講義	歯科技工士科昼間部1年との合同授業を通して、コミュニケーション力を養う。
7	模擬試験対策の結果について	講義	模擬試験対策の結果を踏まえ、国家試験に向けての現在地を確認する。 国家試験までの模擬試験スケジュールを確認し、これからの勉強スケジュールを計画する。
8 (9/4)	技工士科昼間部合同授業	講義	歯科技工士科昼間部1年との合同授業を通して、コミュニケーション力を養う。

科目名	歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
(英)		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科技工業務に必要な関係法規を習得する。						
科目概要	歯科技工士として業務を行うために必要な「歯科技工士法」と「歯科医療関係法規」について、事例を交えながら理解する。						
到達目標	・歯科技工士に必要な衛生行政のについて理解する。 ・歯科技工士法について、様々な事例に適用して捉え理解する。 ・医療法、歯科医師法、歯科衛生士法の概要が理解できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版）			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途授業内で紹介する。						
特記事項	主にオンデマンド授業で講義を進める。 動画授業の視聴ルールは、遠隔授業規定による。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/17)	法律の概要 歯科技工士法概説	講義	歯科技工士法の成り立ちと日本の医療システムと歯科技工士業務の関係を理解する。
2	歯科技工士免許	講義	歯科技工士免許の制度について理解する。(この資格も「登録」「変更」「取り消し」「返納」など、取得後も様々な手続きがあることを理解する。)
3	歯科技工士国家試験 歯科技工業務	講義	歯科技工士免許を取得するための国家試験ならびに歯科技工士の教務内容について法律を確認しながら理解する。
4	歯科技工所	講義	卒業後、多くの学生が活躍する場となる「歯科技工所」とはどのような組織なのか、法律という視点から理解する。患者さんが安心して技工物を使う、提供する側のシステムを理解する。
5	歯科技工士法の罰則・附則等 歯科医療関係法規	講義	歯科医療チームの一員として活躍する為に、歯科医療と歯科医療従事者に関する法律を用いて理解を深める。
6	歯科医療に関するデータ 医療衛生法規 衛生行政	講義	歯科医療を支える、日本の医療や衛生に関する法律の概要を理解する。
7	1～6まとめ	講義	1～6回目を踏まえ、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
8 (9/11)	解説講義	講義	7回目までの講義の理解度を定期試験を用いて確認し、解説講義を行う

科目名 (英)	歯の解剖学応用 Dental Anatomy – Advanced	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	歯科医師であり、大学にて豊富な臨床経験を有する講師が、臨床現場で役立つ解剖学の知識を、事例を交えながら授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な口腔に関する専門的知識と、歯および歯周組織に関する知識を習得する。						
科目概要	顎関節、口腔内の器官（舌、唾液腺）、歯の発生について基本的な知識を理解する。						
	歯の発生機構、硬組織及び歯周組織の構造と経年変化について理解する。						
到達目標	・顎関節の構成と特徴、その機能を理解できる。						
	・口腔の構造、舌の構造（舌乳頭、舌筋）と役割、唾液腺の種類と特徴を理解できる。						
	・硬組織、歯周組織の構造と発生由来、歯冠の発生と歯根の発生機構と加齢変化について理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。						
	欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。						
	評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途授業内で紹介する。						
特記事項	著作権のある資料も用いるので、講義及び提示資料の写真撮影及び録音録画には許可を求めること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/6)	顎関節	講義	顎関節の構成と特徴、顎関節に関与する筋と下顎運動について理解する。
2	口 腔・舌乳頭	講義	口腔領域の分類（口腔前庭と固有口腔）を理解する。舌の各部名称と舌表面にみられる特殊粘膜である舌乳頭の種類と特徴を理解する。
3	舌 筋	講義	筋肉の塊である舌を構成する内舌筋と舌の位置を変える外舌筋の種類と働き、支配神経について理解する。
4	唾液腺①	講義	唾液腺の種類と特徴について理解する。
5	唾液腺②・歯の発生①	講義	唾液腺のそれぞれの存在部位と開口部位について理解する。 歯、歯周組織の発生由来を理解する。
6	歯の発生②	講義	歯冠の発生、歯根の発生を理解する。
7	歯の発生③	講義	歯根の発生を理解する。
8	1～7回目までのまとめ	講義	顎関節・口腔・舌乳頭・舌筋・歯の発生についてまとめ講義を通じて、理解を深める。
9	エナメル質	講義	エナメル質の基本的構造、加齢変化について理解する。
10	象牙質	講義	象牙質の基本的構造、加齢変化について理解する。
11	セメント質	講義	セメント質の基本的構造、加齢変化について理解する。
12	歯根膜・歯槽骨	講義	歯根膜・歯槽骨の基本的構造、加齢変化について理解する。
13	歯肉	講義	歯肉の基本的構造、加齢変化について理解する。また、歯肉を含めて口腔粘膜の分類を理解する。
14	歯髄、組織の加齢現象	講義	歯髄の基本的構造、加齢変化について理解する。また、歯髄を含めてこれまで勉強してきた歯や歯周組織の加齢現象の全体像を復習する。
15 (7/11)	まとめ講義	講義	エナメル質、象牙質、セメント質、歯根膜・歯槽骨、歯肉、歯髄、組織の加齢現象についてまとめ講義を通じて、理解を深める。

科目名 (英)	顎口腔機能学応用 Stomatognathic Function Science-Advanced	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	教員歴30年以上の教員が技工に関して分からないことはないくらい豊富な知識で授業を進めていく。模型の製作方法、フェイスボウの使い方、半調節性咬合器の使い方についてデモンストレーションをしながら授業を展開していく。						
目的	顎の動きや顎の動きに調和した噛み合わせについての知識を習得する。						
科目概要	顎の動きや歯の接触について、図や写真を交えながら理解を深める。						
到達目標	・下顎の動きが理解できる。 ・咬頭嵌合位や偏心位において上下顎の歯の接触を理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価として、定期試験 100点満点 とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「口腔・顎顔面解剖学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/26)	下顎運動に関係する基準点・基準面 咬合に関する平面・下顎位について	講義	・咬合に関する平面を理解する。 ・下顎位の名称、特徴を理解する。
2	下顎前後運動・側方運動について	講義	・小テスト(咬合に関する平面・下顎位の名称)を実施する。 ・下顎前後運動・側方運動を理解する。
3	下顎限界運動①について	講義	・小テスト(下顎前後運動・側方運動)を実施する。 ・下顎限界運動を理解する。
4	下顎限界運動②・機能運動について	講義	・小テスト(下顎限界運動)を実施する。 ・ゴシックアーチ・咀嚼サイクルの特徴、嚥下・発音を理解する。
5	歯の接触様式①について	講義	・小テスト(ゴシックアーチ・機能運動)を実施する。 ・機能咬頭と非機能咬頭・被蓋関係を理解する。 ・歯の接触様式(カスプトウフォッサ・カスプトウリッジ)を理解する。
6	歯の接触様式②・咬合様式について	講義	・小テスト(歯の接触様式)を実施する。 ・咬合接触(ABCコンタクト)、3点接触・機能咬頭の運動方向を理解する。 ・機能咬頭の運動方向を理解する。
7	咬合様式 咬合検査と顎機能障害	講義	・小テスト(咬合様式)を実施する。 ・咬合様式と咬合干渉を理解する。 ・咬合検査、顎機能障害、スプリント療法を理解する。
8 (8/29)	まとめ	講義	1回目から7回目までの講義の振り返りを行う。 さらに間違いやすい項目は図や写真を用いて講義を行い理解度を深める。

科目名 (英)	顎口腔機能学実践 Training of Stomatognathic Function Science	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1	(コマ数)			
講師紹介	教員歴30年以上の教員が技工に関して分からないことはないくらい豊富な知識で授業を進めていく。模型の製作方法、フェイスボウの使い方、半調節性咬合器の使い方についてデモンストレーションをしながら授業を展開していく。						
目的 科目概要	目的:フェイスボウを使った半調節性咬合器の取り扱い方法その手順を理解習得し、臨床的な知識として歯冠修復や有床義歯の実習に活かす。概要:患者約と歯科医師役に分かれ顔弓記録と咬合採得を体験し、顔弓記録が歯科技工の仕事にどのように関わってくるのかを知る。顔弓記録を使って、自分の口腔内模型を咬合器に装着し、手順を理解する。さらに、チェックバイトを使って咬合器の顎路調節をし、臨床的知識を修得する。						
到達目標	・フェイスボウの使い方の手順が分かる。 ・フェイスボウの使った咬合器の装着方法が分かる。 ・前方・後方の基準点が分かる。						
評価方法	学則および学則施行細則に基づく成績評価を行う。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☐ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート ☐ 作品						
教科書	配布プリント			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 指示があったところまで、実習を進めておく。 【事後学習】 配布プリント、教科書を含め確認しておく。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに閉じ、実習時に必ず準備すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (6/5)	口腔内模型の製作①	演習	台付を行い平行模型を製作する。 平行模型について理解する。 台付するための石膏操作(石膏の硬さ、石膏の盛り方)を習得する。				
2	口腔内模型の製作②	演習	トリマーの操作方法を習得する。 模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削る。 ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整える。				
3	口腔内模型の製作③	演習	トリマーの操作方法を習得する。 模型の基底面が咬合平面と平行になるよう削る。 ハンドエンジンを使って模型の辺縁を整える。				
4	咬合器の0セッティング	演習	半調節性咬合器の矢状顎路角15度、側方顎路角0度に合わせてセッティングをする。				
5	フェイスボウトランスファー① 咬合器装着	演習	フェイスボウトランスファーの使用方法について理解する。 3人1組になってフェイスボウを使って、前方、後方の基準点について理解する。 咬頭嵌合位でチェックバイトを採得することができる。				
6	フェイスボウトランスファー② 咬合器装着	演習	フェイスボウを用いて上顎の模型を咬合器に装着する。 フェイスボウを半調節性咬合器に装着方法を習得する。 下顎の口腔内模型を咬頭勘合位で装着する。				
7	チェックバイト①	演習	前方咬合位でのチェックバイトを採得する。				
8 (6/26)	顎路調節	演習	前方チェックバイトを使った矢状顎路角を調整する。 側方顎路角を計算式から算出し、咬合器の側方顎路角を調節する。 咬合器に装着された上下顎模型を運動させ、咬合接触の状態を観察する。				

科目名 (英)	歯科理工学応用Ⅰ Dental Materials Science-AdvancedⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める授業を行う。						
目的	歯科材料(金属・レジン・セラミック)の性質や取り扱いについて、総合的に捉え理解することができる。						
科目概要	高分子、セラミックス及び複合材料の種類と性質を理解できる。						
到達目標	1年次で学んだ歯冠修復物や義歯、矯正装置の製作手順を理解した上で、材料の特性を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は定期試験100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】1年次(あるいは現行の)実習授業で使用了使用材料や取り扱いの方法を確認しておくとう良い。		
参考図書	なし						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/8)	まとめ1『模型材(石膏)』	講義	石膏には様々な種類があり、用途に合わせて使い分けをしていく必要がある。また、取り扱いを誤ると正確な技工物を製作できなくなる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
2	まとめ2『義歯床用レジン』	講義	義歯床で使用するレジン(加熱重合・常温重合)は、成分の違いにより製作工程や精度が異なるためそれぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。全部床義歯の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
3	まとめ3『金属』①	講義	歯科技工に用いられる金属材料全般ならびに合金について振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
4	まとめ4『金属』②	講義	歯科技工に用いられる銀合金ならびに非貴金属合金について振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
5	まとめ5『印象材』	講義	印象材には様々な種類があり、用途に合わせて使い分けを行う。また、取り扱いを誤ると変形や寸法変化の原因となり正確な技工物を製作できなくなる。1年次の実習を振り返りながら、特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
6	まとめ6『陶材(セラミックス)』	講義	セラミック材料は審美歯科材料として現在注目され需要も高まっているが、成分により様々な種類があり特性も大きく違うため、それぞれの長所・短所を理解した上で製作する必要がある。歯冠修復技工学の、「陶材焼付金属冠」の授業内容とリンクさせながら理解を深める。
7	まとめ7『歯冠用硬質レジン』	講義	レジン前装冠で使用する硬質レジン(光重合)は、同じレジンの種類でも義歯床用レジンとは成分や特性が大きく違うため、誤った製作工程により口腔内で離脱する原因となる。レジン前装冠の実習内容と照らし合わせながら特性と正しい取り扱いについて理解を深める。
8	まとめ8『材料の性質(機械的性質)』	講義	多くある材料の中で、適切なものを選択するためには材料の性質について理解を深める。材料試験の種類や評価方法などを学び数値から材料の性質について理解を深める。
9	まとめ9『材料の性質(物理的性質、化学的性質、生物学的性質)』	講義	多くある材料の中で、適切なものを選択するためには材料の性質について理解を深める。材料試験の種類や評価方法などを学び数値から材料の性質について理解を深める。
10	まとめ10『金属の接合・鋲付け』	講義	1年次に行った鋲付けの実習を振り返りながら、別々に製作した金属パーツを接合して技工物を完成させる方法について理解を深める。
11	まとめ11『切削・研削・研磨』	講義	製作した技工物が口腔内で適合し機能するために、形態修正(調整)～仕上げまでの工程で適切な研磨材料を使用し、実習で使用した各種材料を振り返りながら、適切な研磨方法や使用器材について理解を深める。
12	まとめ12『原型材料(ワックス)』	講義	歯科精密鑄造の原型材料として広く用いられるワックスの組成、性質、ワックスパターンの取り扱い上の注意、ならびに歯科技工に用いられる各種ワックスについて理解を深める。
13	まとめ13『鑄造の基礎』『スプルー・湯溜り・エアレント』	講義	歯科精密鑄造に用いられるロストワックス法の工程と溶融金属の性質、ならびに鑄造原型に取付けられるスプルー、湯溜り、エアレントの役割について理解を深める。
14	まとめ14『埋没材』	講義	鑄造時に使用する埋没材は、使用金属により成分も利用温度も大きく違う。適合の良い鑄造体を得るためには特性を理解し使い分けをしていく必要がある。1年次からの鑄造体験を踏まえ取り扱いについて理解を深める。
15 (8/26)	まとめ15『埋没操作』『鑄造用合金』	講義	精度の良い鑄造体を得るため、スプルー等を取り付けた原型の埋没操作、鑄造に用いられる合金の所要性質と種類について理解を深める。

科目名 (英)	有床義歯技工学応用 Denture Techniques-Advanced	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	有床義歯に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	有床義歯製作に必要な人体、材料、技工操作などを理解する。						
到達目標	・歯が抜けてしまった口腔内の変化を知り、有床義歯の重要性を理解する。 ・全部床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。 ・部分床義歯の構成要素、製作に関する手順、注意点を理解し、説明できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は定期試験100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/10)	金属床義歯①	講義	金属床義歯の利点・欠点を理解する。 金属床義歯の種類を理解する。
2	金属床義歯②	講義	部分床義歯のフレームワークの製作手順を理解する。
3	ケネディーの分類・アイヒナーの分類	講義	残存歯・欠損の分布状態による分類(ケネディーの分類) 咬合圧支持域による分類(アイヒナーの分類)
4	オルタードキャスト法	講義	印象採得に伴う技工作業について理解する。 オルタードキャストについて理解する。
5	テレスコープデンチャー	講義	テレスコープ義歯について理解する。 コーヌステレスコープとパラレルテレスコープの違いについて理解する。
6	ノンメタルクラスプデンチャー	講義	ノンクラスプデンチャーについて理解する。 ノンクラスプデンチャーの利点・欠点を理解する。
7	オーバーデンチャー	講義	オーバーデンチャーについて理解する。 コンプリートオーバーデンチャーとパースシャルオーバーデンチャーの違いについて理解する。
8 (5/29)	解説講義	講義	7回目までの講義の理解度を定期試験を用いて確認する。

科目名 (英)	全部床義歯基礎実習Ⅰ Basic Training of Complete denture TechniquesⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯製作に関する専門的知識と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列方法の理解を深め、下顎法で排列する。						
到達目標	全部床義歯の前歯部、臼歯部人工歯排列方法(下顎法)、製作上の注意点を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を85点、レポートを15点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)「オリジナル実習帳」等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/14)	咬合器装着〔402U(トレーニング模型)〕 スプリットキャスト形成〔402U〕	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
2	咬合器装着〔402L(トレーニング模型)〕 スプリットキャスト形成〔402U〕	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 スプリットキャストの形成方法、注意点について理解する。
3	咬合採得〔蠟堤調整〕 上顎模型咬合器装着〔402U〕	実習	咬合採得法の意味、調整法について理解する。 咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。
4	下顎模型咬合器装着〔402L〕 排列トレーニング〔上顎前歯部〕	実習	咬合平面板を用いた咬合器装着方法、注意点について理解する。 下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
5	排列トレーニング〔上顎前歯部〕	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
6	上顎前歯部排列	実習	下顎法の上顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
7	排列トレーニング〔下顎前歯部〕	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
8	下顎前歯部排列	実習	下顎法の下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
9	上下顎前歯部排列 完成	実習	下顎法の上下顎前歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
10	排列トレーニング 〔下顎右側臼歯部〕	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
11	下顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
12	下顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の下顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
13	上顎右側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
14	上顎左側臼歯部排列	実習	下顎法の上顎臼歯部排列基準、排列方法、注意点について理解する。
15 (6/8)	人工歯排列 完成	実習	下顎法の人工歯排列基準、排列方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	全部床義歯基礎実習Ⅱ Basic Training of Complete denture TechniquesⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台祐介
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯製作に関する専門的知識と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の歯肉形成～流蠟までの方法、注意点の理解を深める。						
到達目標	全部床義歯のフラスコ埋没～流蠟の方法、注意点を理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を85点、レポートを15点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)「オリジナル実習帳」等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/8)	歯肉形成〔下顎右側臼歯部〕 * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
2	歯肉形成〔下顎左側臼歯部〕 * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
3	歯肉形成〔上顎臼歯部〕 * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部頬側の歯肉形態について理解する。
4	歯肉形成〔上顎前歯部唇側〕 * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
5	歯肉形成〔下顎前歯部唇側〕 * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部唇側の歯肉形態について理解する。
6	歯肉形成〔上顎前歯部舌側〕 * デモと一緒に	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 S字状隆起、前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
7	歯肉形成〔下顎前歯部舌側〕 * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 前歯部舌側の歯肉形態について理解する。
8	歯肉形成〔上下顎臼歯部舌側〕 * Stepチェック	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 臼歯部舌側の歯肉形態について理解する。
9	口蓋ヒダトレーニング	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。 口蓋ヒダの形態について理解する。
10	歯肉形成 完成	実習	歯肉形成の方法、注意点について理解する。
11	埋没準備～一次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 埋没準備～一次埋没までの方法、注意点について理解する。
12	レジン溜り～二次埋没	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 レジン溜り～二次埋没までの方法、注意点について理解する。
13	二次埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。 二次埋没の方法、注意点について理解する。
14	埋没 完了	実習	フラスコ埋没の方法、注意点について理解する。
15 (7/20)	流 蠟	実習	フラスコ埋没の流蠟の方法、注意点について理解する。

科目名 (英)	全部床義歯基礎実習Ⅲ Basic Training of Complete denture TechniquesⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯製作に関する専門的知識と技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯(総入れ歯)の流蝕～研磨・完成までの方法注意点の理解を深める。						
到達目標	全部床義歯の重合～掘り出し、削合、研磨の方法、注意点を理解できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を85点、レポートを15点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)「オリジナル実習帳」等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (7/20)	流蝕 完了	実習	フラスコ埋没の流蝕の方法、注意点について理解する。
2	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
3	レジン填入～重合	実習	加熱重合レジンの取り扱い方法、注意点について理解する。 レジン填入～重合までの方法、注意点について理解する。
4	掘り出し～咬合器再装着	実習	掘り出しの方法、注意点について理解する。 咬合器再装着の方法、注意点について理解する。
5	削 合 〔選択削合～自動削合〕	実習	選択削合の方法、注意点について理解する。 自動削合の方法、注意点について理解する。
6	自動削合～人工歯形態修正	実習	自動削合の方法、注意点について理解する。 人工歯形態修正の方法、注意点について理解する。
7	粗研磨 〔義歯床床縁の調整〕	実習	粗研磨の方法、注意点について理解する。 義歯床床縁の調整方法、注意点について理解する。
8	中研磨	実習	中研磨の方法、注意点について理解する。
9	仕上げ研磨 〔レーズ研磨〕	実習	仕上げ研磨の方法、注意点について理解する。 レーズの取り扱い方法、注意点について理解する。
10	研磨 完成	実習	研磨の方法、注意点について理解する。 全部床義歯の研磨面の形態について理解する。
11	実技トレーニング 準備	実習	全部床義歯の蠟堤の調整方法、注意点について理解する。
12	実技トレーニング FD排列①	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
13	実技トレーニング FD排列①振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。
14	実技トレーニング FD排列②	実習	下顎法の全部床義歯人工歯排列方法、注意点について理解する。
15 (9/14)	実技トレーニング FD排列②振り返り	実習	全部床義歯人工歯排列基準について理解する。

科目名 (英)	歯冠修復技工学応用 Restorative Dentistry Advanced	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有する講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	前装冠やインプラントを中心に臨床的な模型で歯冠修復物(人工臓器)を製作するのに必要な理論や基本的な製作方法を理解する。						
到達目標	・陶材焼付金属冠の特徴について理解することができる。 ・陶材焼付金属冠とレジン前装冠の違いについて理解することができる。 ・インプラントの特徴や構造について理解することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	授業に必要な教科書、講義プリントを準備し、授業に参加すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/5)	陶材焼付金属冠①	講義	・陶材焼付金属冠の概要と特徴を理解する。 ・陶材焼付金属冠のフレーム形態を理解する。 ・ディギッシングの目的・方法、オベークの目的を理解する。				
2	陶材焼付金属冠②	講義	・小テスト(フレーム形態・加熱処理の目的など)を実施する。 ・陶材築盛からグレースまでの目的について理解する。 ・陶材焼付金属冠とレジン前装冠の利点・欠点について理解する。				
3	彩色・審美的要件	講義	・小テスト(陶材築盛、グレースまでと陶材焼付金属冠の利点・欠点)を実施する。 ・色調選択時の注意事項について理解する。 ・審美的要件を理解する。				
4	ジャケットクラウン オールセラミッククラウン	講義	・小テスト(彩色・審美的要件)を実施する。 ・ジャケットクラウンの種類と特徴、オールセラミッククラウンの特徴について理解する。 ・ジャケットクラウンと前装冠の利点・欠点について理解する。				
5	CAD/CAMシステム	講義	・小テスト(ジャケットクラウンの種類と特徴など)を実施する。 ・CAD/CAMシステムの種類と特徴について理解する。 ・CAD/CAMの利点・欠点について理解する。				
6	インプラント	講義	・小テスト(CAD/CAMシステムの種類と特徴など)を実施する。 ・インプラントの概要、特徴について理解する。 ・上部構造製作時の注意点について理解する。				
7	適合・間接法のまとめ	講義	・小テスト(インプラントの概要、特徴、上部構造製作時の注意点など)を実施する。 ・修復物が歯型、支台歯に戻らない原因について理解する。 ・咬合が高くなる、低くなる原因について理解する。				
8 (5/23)	まとめ	講義	1回目から7回目までの講義の振り返りを行う。 さらに間違えやすい項目は図や写真を用いて講義を行い理解度を深める。				

科目名 (英)	歯冠修復応用実習Ⅰ Advanced Training of Restorative DentistryⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1			開講区分	前期
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有する講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	臨床模型を用いた模型の製作やワックスアップから、歯冠色材料(レジン)の築盛、形態修正を行う。						
到達目標	・歯列に調和した(豊隆、咬合接触、隣接面接触など)クラウンを製作することができる。 ・咬頭の運動路を理解した蠟型を完成できる。 ・レジンの操作手順を理解し、レジン前装冠として完成させることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☐ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)、「オリジナル実習帳」等				事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。	
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず持参すること。欠席や実習の遅れは、教員の指示を仰ぐこと。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/5)	レジン前装ポンティックの前装 金属接着プライマー～オパークレジン 塗布	実習	①レジン前装ポンティック(築盛操作)の製作手順を理解する。 ②金属接着プライマー、オパークレジンの目的を理解する。				
2	ポンティックの前装 デンティン色、エナメル色レジンの築盛	実習	①レジン前装ポンティック(築盛操作)の製作手順を理解する。 ②デンティン色、エナメル色レジンの築盛順序を習得する。				
3	レジン前装冠 金属接着プライマー～オパークレジン 塗布	実習	①レジン前装冠(築盛操作)の製作手順を理解する。 ②金属接着プライマー、オパークレジンの目的を理解する。				
4	レジン前装冠 デンティン色、エナメル色レジンの築盛	実習	①レジン前装ポンティック(築盛操作)の製作手順を理解する。 ②デンティン色、エナメル色レジンの築盛順序を習得する。				
5	光重合(最終重合)	実習	①歯冠の内部構造(指状構造)を理解する。 ②光重合器の使用法、エナメル色レジンの築盛方法を覚え理解する。				
6	レジン前装ポンティック、レジン前装冠 の 形態修正	実習	①レジン前装ブリッジ、レジン前装冠の製作手順を理解する。 ②歯冠概形の形態修正の手順を習得する。③硬質レジンの研磨方法を習得する。				
7	レジン前装ポンティック、レジン前装冠 の 形態修正	実習	①レジン前装ブリッジ、レジン前装冠の製作手順を理解する。 ②歯冠概形の形態修正の手順を習得する。③硬質レジンの研磨方法を習得する。				
8	レジン前装ポンティック、レジン前装冠 の 形態修正	実習	①レジン前装ブリッジ、レジン前装冠の製作手順を理解する。 ②歯冠表面の細部の形態修正の手順を習得する。③硬質レジンの研磨方法を習得する。				
9	レジン前装ポンティック、レジン前装冠 の 研磨	実習	①レジン前装ブリッジ、レジン前装冠の製作手順を理解する。 ②レジンと金属の境界部の研磨方法を習得する。③硬質レジンの研磨方法を習得する。				
10	レジン前装ポンティック、レジン前装冠 の 研磨完成	実習	①レジン前装ブリッジ、レジン前装冠の製作手順を理解する。 ②レジン、金属部の最終研磨方法を習得する。③硬質レジンの研磨方法を習得する。				
11	フィッシュマウスの練習	実習	フィッシュマウスの練習を行う。				
12	臨床複模型実習 (作業模型の基底面削除)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。(作業用模型を反復製作する。) ②作業用模型の一次石膏の削除方法の反復操作をする。				
13	臨床複模型実習 (回転防止溝付与・ダウエルピン植立)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。(作業用模型を反復製作する。) ②ダウエルピン植立の位置や回転防止溝を理解する。				
14	臨床複模型実習 (台付け～台付け移行部の処理)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。(作業用模型を反復製作する。) ②歯型可撤式模型の利点、欠点を理解する。				
15 (7/10)	臨床複模型実習 (分割、トリミング)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。(作業用模型を反復製作する。) ②トリミングの目的を理解する。				

科目名 (英)	歯冠修復応用実習Ⅱ Advanced Training of Restorative DentistryⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有する講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として機能的な歯冠修復物を製作するための専門的知識を習得する。						
科目概要	金属やプラスチック、セラミックなどの材料を使い、臨床模型を用いた模型の製作やワックスアップを実践する。						
到達目標	・歯列に調和した(豊隆、咬合接触、隣接面接触など)クラウンを製作することができる。 ・マージン修正時、内面にワックスの境目やしわの無いように修正ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を100点満点で採点し、その平均値を算出する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)、「オリジナル実習帳」等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず持参すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (7/10)	臨床複模型実習 (咬合器装着)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。 ②咬合器に装着する方法を理解する。③咬合器の目的と種類について理解する。				
2	臨床複模型実習 (蠟型採得)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。 ②臨床的な歯冠形態(主溝と概形)を再現する。				
3	臨床複模型実習 (蠟型採得)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。 ②臨床的な歯冠形態(主溝と概形)を再現する。				
4	臨床複模型実習 (蠟型採得)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。 ②臨床的な歯冠形態(副溝と咬合接触)を再現する。				
5	臨床複模型実習 (蠟型採得)	実習	①臨床的複模型でクラウンを製作する。 ②臨床的な歯冠形態(副溝と咬合接触)を再現する。				
6	臨床複模型実習 (臼歯部メタルコアの蠟型採得)	実習	①メタルコアの製作手順を習得する。 ②メタルコアのポスト採得方法を習得する。③臼歯部メタルコアの蠟型採得方法を習得する。				
7	臨床複模型実習 (臼歯部メタルコアの蠟型採得)	実習	①メタルコアの製作手順を習得する。 ②メタルコアのポスト採得方法を習得する。③臼歯部メタルコアの蠟型採得方法を習得する。				
8	臨床複模型実習 (前歯部メタルコアの蠟型採得)	実習	①メタルコアの製作手順を習得する。 ②メタルコアのポスト採得方法を習得する。③前歯部メタルコアの蠟型採得方法を習得する。				
9	臨床複模型実習 (前歯部メタルコアの蠟型採得)	実習	①メタルコアの製作手順を習得する。 ②メタルコアのポスト採得方法を習得する。③前歯部メタルコアの蠟型採得方法を習得する。				
10	臨床複模型実習 (スプルー植立～埋没)	実習	①クラウン、メタルコアを製作する。 ②スプルー植立～埋没までの製作手順を習得する。				
11	臨床複模型実習 (スプルー植立～埋没)	実習	①クラウン、メタルコアを製作する。 ②スプルー植立～埋没までの製作手順を習得する。				
12	臼歯部クラウンのワックスアップの練習	実習	臼歯部のフィッシュマウス～クラウンのワックスアップ練習を行う。				
13	臨床複模型実習 (鑄造～クラウンの適合)	実習	①クラウン、メタルコアを製作する。 ②鑄造～クラウンの適合までの製作手順を習得する。				
14	臨床複模型実習 (研磨・軸面調整)	実習	①クラウン、メタルコアを製作する。 ②クラウンの研磨、メタルコアの軸面調整までの製作手順を習得する。				
15 (9/22)	完成・提出	実習	クラウン(全部金属冠・レジン前装冠)、メタルコアを完成させ提出する。				

科目名 (英)	矯正歯科技工学各論 Particular Theories of Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	赤塚 加奈子 他
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	歯科医師として歯科大学附属病院で臨床経験を有する講師と、歯科技工士として歯科大学附属病院での臨床経験を有する教員が講義を行う。						
目的	各種矯正装置の役割や分類、構造を学び、製作方法を習得する。						
科目概要	矯正治療の概要を理解し、正常咬合と不正咬合、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的技法を理解する。						
到達目標	各種不正咬合の治療の為に主要な矯正装置の役割や製作手順を理解できる。 各種装置の基本構造と製作手順、実際の使用方法や適応症について理解を深め、歯や顎骨を移動させているのか理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (6/13)	オリエンテーション 矯正歯科技工学総論の復習	講義	矯正装置を学ぶために必要な基礎知識について理解する。
2	矯正装置 I	講義	矯正装置のうち動的矯正装置について構成・製作方法について理解する。
3	矯正装置 II	講義	矯正装置のうち動的矯正装置について構成・製作方法について理解する。
4	矯正装置 III	講義	矯正装置のうち動的矯正装置について構成・製作方法について理解する。
5	矯正装置 IV	講義	矯正装置のうち保定装置について構成・製作方法について理解する。
6	まとめ講義 I	講義	矯正装置について構成・製作方法などについて理解を深める。
7	まとめ講義 II	講義	矯正装置について構成・製作方法などについて理解を深める。
8 (9/4)	解説講義	講義	7回目までの講義の理解度を定期試験を用いて確認する。

科目名 (英)	小児歯科技工学各論 Particular Theories of Pedodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	田村 睦
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科大学附属病院、歯科技工所、歯科医院での臨床経験を有した教員が、国家試験の分析を踏まえてわかりやすい講義を行う。						
目的	小児歯科で用いられる歯冠修復物や各種咬合誘導装置について、その特徴と製作方法の知識を習得する。						
科目概要	小児歯科技工学総論を復習し、歯冠修復や各種咬合誘導装置を理解する。						
到達目標	・小児歯科で用いられる歯冠修復物の、目的を理解し、成人の歯冠修復との相違点を習得する。 ・各種咬合誘導装置について、理論と装置の構成、その製作方法を習得する。 ・代表的な口腔習癖及びその習慣をやめさせる装置について、装置の構成と使用効果、製作方法について習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版株式会社）			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	適宜紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (5/30)	小児歯科技工学総論の復習①	講義	乳歯と永久歯の萌出順序、ヘルマンの歯齢、乳歯の特徴について復習する。				
2	小児歯科技工学総論の復習②	講義	無歯期～混合歯列期（ヘルマンⅠA～ⅢA）について復習する。				
3	小児歯科技工学総論の復習③	講義	混合歯列期（ヘルマンⅢB）について復習する。				
4	小児の歯冠修復・咬合誘導装置の種類	講義	小児の歯冠修復の種類と特徴を理解する。 咬合誘導装置の分類、保隙装置の意義、各種保隙装置の利点・欠点について理解する。				
5	保隙装置①	講義	クラウンループ・バンドループ、ディスタルシューの目的、特徴、製作法について理解する。				
6	保隙装置②	講義	リンガルアーチ、ナンスのホールディングアーチの目的、特徴、製作法について理解する。				
7	保隙装置③ スペースリゲーター	講義	可撤保隙装置の目的、特徴、製作法について理解する。 スペースリゲーターの目的、特徴、製作法について理解する。				
8 (8/29)	口腔習癖除去装置・維持装置	講義	口腔習癖の種類、装置の種類について理解する。 咬合誘導装置に用いる維持装置の種類、特徴、製作法について理解する。				

科目名 (英)	小児歯科技工実習 Practical Training of Pedodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	西山 輝
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	大手矯正技工所に勤務し、現在は矯正歯科技工所を経営して豊富な臨床経験を有する講師が、その経験を活かし実習を行う。						
目的	矯正治療の概要を理解し、正常咬合と不正咬合、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的技法を習得する。						
科目概要	各種矯正装置の役割や構造、製作方法について、装置製作に必要な「線屈曲」「自在ロー付け」2つの操作を理解する。						
到達目標	各種主要な矯正装置製作の技術である矯正線の屈曲法、自在ロー着技法、舌側弧線装置、ホーレーの保定装置の製作を行い、役割や製作手順について必要な理論と技術を理解し、自力で製作できるように、ステップや注意点を確認しながら進められる力を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。						
	評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートを20点、合わせて100点満点とする。提出日は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「矯正歯科技工学」(医歯薬出版)、「オリジナル実習帳」			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び、録画撮影を許可する。ただし、SNS等での拡散は禁止します。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/13)	STロック鑑着	実習	歯頸部寄りにSTロックを正しい位置に鑑着を行う。 アンチフラックスの処理を行う。 適切な鑑着量を理解する。
2	STロック鑑着	実習	歯頸部寄りにSTロックを正しい位置に鑑着を行う。 アンチフラックスの処理を行う。 適切な鑑着量を追加する。
3	主線の屈曲	実習	手指で屈曲を行う。 細部はアダムスのプライヤーで調整を行う 脚部の屈曲を終えてから主線の切断を行う。
4	主線の屈曲～脚部の屈曲①	実習	チューブの下縁と第二小臼歯歯頸部の高さを参考に屈曲を行う。 鑑付けを考えた、正しい切断を理解する。
5	主線の屈曲～脚部の屈曲②	実習	チューブの下縁と第二小臼歯歯頸部の高さを参考に屈曲を行う。 鑑付けを考えた、正しい切断を理解する。
6	主線と脚部の鑑付け	実習	正しい鑑着方向と鑑着量で仕上げを行う。 接合部模型の粘膜面に小豆大の窪みを製作する。 アンチフラックスの処理を行う。
7	補助弾線の屈曲・鑑付け①	実習	補助弾線の設計を行う。 歯面に沿った鑑付けを行う。 焼きなまされないよう、処理する。
8	補助弾線の屈曲・鑑付け②	実習	補助弾線の設計を行う。 歯面に沿った鑑付けを行う。 焼きなまされないよう、処理する。
9	装置の研磨・完成	実習	研磨を行う。 補助弾線の屈曲を行う。
10	保険装置の模型製作	実習	模型製作を行う。 ポートフォリオの記入を行う。
11	保険装置の模型製作	実習	模型の調整を行う。 乳歯用既製金属冠の調整を行う。 矯正用ワイヤーの屈曲を行う。
12	クラウンループ保険装置の製作	実習	矯正用ワイヤーの屈曲を行う。
13	クラウンループ保険装置の製作	実習	矯正用ワイヤーの屈曲を行う。
14	クラウンループ保険装置の製作	実習	自在ロウ着の準備を行う。 矯正用ワイヤーと金属冠を自在ロウ着する。
15 (5/25)	クラウンループ保険装置の製作	実習	研磨作業を行い、クラウンループを完成させる。

科目名 (英)	歯型彫刻総合Ⅰ Comprehensive Training of Dental CarvingⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、歯牙形態の彫刻方法について授業を実施する。						
目的	歯型彫刻の手法を用いて、技工物製作の基本となる歯の形態を細部にわたり製作できるようになる。						
科目概要	デッサンと模刻を繰り返し練習し、歯の形態を理解する。						
到達目標	・歯型彫刻については見本模型を用いず40分以内に指定した歯種の外形と主溝を再現することができる。 ・歯のデッサンについては、見本模型を用いず20分以内に指定した歯種についての5面の線画(外形と主溝)を描記できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 作品(各評価の平均値)80点、レポート20点で評価する。提出物の期限は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	各課題に対しての採点基準はルーブリック評価表などで確認し、必要な手順や知識・技術を確認しておく。		
参考図書	適宜紹介する。						
特記事項	デモンストレーション及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/12)	上顎第一小臼歯彫刻	実習	春季休暇課題である上顎第一小臼歯の彫刻を実施することで、自身の彫刻技術について理解する。
2	上顎第一大臼歯面取り彫刻 上顎第一小臼歯彫刻確認	実習	上顎第一大臼歯の面取り彫刻をステップごとに作成していく、その間に上顎第一小臼歯の確認を受ける。
3	上顎第一大臼歯面取り彫刻 上顎第一小臼歯彫刻仕上げ	実習	上顎第一大臼歯の面取り彫刻をステップごとに作成していく、その間に上顎第一小臼歯の修正、完成提出
4	上顎第一大臼歯面取り彫刻 Step模型作成	実習	上顎第一大臼歯の面取り彫刻をステップごとに作成
5	上顎第一大臼歯仕上げ彫刻	実習	上顎第一大臼歯の面取り彫刻のステップ模型と仕上げ彫刻を1本完成させる。
6	上顎中切歯面取り彫刻① 上顎第一大臼歯模型製作	実習	上顎中切歯の面取り彫刻を実施(45分)⇒講師の確認を受ける 上顎第一大臼歯模型製作
7	上顎中切歯面取り彫刻② 歯型デッサン	実習	前回の彫刻確認の続き(40分)⇒修正可 上顎中切歯の面取り彫刻を実施(45分)
8	上顎中切歯面取り彫刻③ 歯型デッサン	実習	前回の彫刻確認の続き(40分)⇒修正可 上顎中切歯の面取り彫刻を実施(40分)
9	上顎中切歯面取り彫刻④ 歯型デッサン	実習	上顎中切歯の仕上げ完成までの彫刻を実施する。(40分) 講師の確認、修正実施。
10	上顎中切歯面取り彫刻⑤ 歯型デッサン	実習	上顎中切歯の仕上げ完成までの彫刻を実施する。(35分) 講師の確認、修正実施。
11	上顎第一大臼歯仕上げ彫刻完成	実習	上顎第一大臼歯の彫刻を仕上げ完成まで45分間で実施する。
12	合同実習へ向けての予行練習	実習	1年生への彫刻指導法について、相手が理解しやすい伝え方について理解する。
13	歯型彫刻合同実習	実習	1年生との合同実習を通じることで自身の状況を把握と更なるレベルアップできるようにする。
14	歯型彫刻コンテスト対策	実習	コンテストに向けて自身の状況把握と今まで習得してきた技術について理解を深める。
15 (9/6)	試験形式での歯型彫刻	実習	見本模型なしで歯型彫刻(デッサン含む)を実施。完成後に見本模型と見比べて確認、修正後、注意点を守って仕上げ完成させることができるようになる。

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅲ Training of Dental TechnologyⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	総合的に歯科技工技術を習得する。						
科目概要	・模型製作を通して、石膏操作の確認、咬合器装着をする。 ・指定された課題作品を製作する。						
到達目標	・限られた時間内に、模型製作、咬合器装着ができる。 ・決められた時間内に指定された実習作品を完成させることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 実技試験として「作品の評価」を90点、レポートを10点で評価する。作品は認定試験模型とし、提出日は別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	オリジナル実習帳等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を 読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで 進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (4/2)	印象採得	実習	見本模型の印象採得を通して、印象材の性質や基本的取り扱いについて理解を深める。				
2	印象採得	実習	見本模型の印象採得を通して、印象材の性質や基本的取り扱いについて理解を深める。				
3	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。				
4	模型製作	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。				
5	咬合床製作	実習	咬合床製作を通して、レジンおよびワックスの基本的取り扱いについて理解を深める。				
6	咬合床製作	実習	咬合床製作を通して、レジンおよびワックスの基本的取り扱いについて理解を深める。				
7	咬合床製作	実習	咬合床製作を通して、レジンおよびワックスの基本的取り扱いについて理解を深める。				
8	咬合床製作	実習	咬合床製作を通して、レジンおよびワックスの基本的取り扱いについて理解を深める。				
9	咬合器装着	実習	模型製作を通して、石膏の基本的取り扱いについて理解を深める。				
10	咬合器装着	実習	製作した模型を咬合器に装着し、石膏の基本的取り扱い、性質について理解を深める。				
11	咬合器装着	実習	製作した模型を咬合器に装着し、石膏の基本的取り扱い、性質について理解を深める。				
12	咬合器装着	実習	製作した模型を咬合器に装着し、石膏の基本的取り扱い、性質について理解を深める。				
13	課題製作	実習	決められた時間内に課題を仕上げ、作品の評価を受けて技術の向上をはかる。				
14	課題製作	実習	決められた時間内に課題を仕上げ、作品の評価を受けて技術の向上をはかる。				
15 (9/21)	課題製作	実習	決められた時間内に課題を仕上げ、作品の評価を受けて技術の向上をはかる。				

科目名 (英)	総合歯科技工学Ⅰ Dental Technology – ComprehensiveⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2				
講師紹介	歯科技工士として歯科大学附属病院や歯科技工所での実務経験を有する教員が、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据え、今まで履修した内容をを総合的に習得する。						
科目概要	歯科技工士として必要な知識を講義や試験形式で理解度の確認を行い、知識の定着と理解度を深める。						
到達目標	・専門科目の枠を超え、総合的に考えることができる。 ・理解できない点、疑問点を発見し、それを理解することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。プレ模擬試験(有床、修復、解剖、理工、矯正、小児、顎口腔および法規)で評価する。 試験内容は、知識に対する総合的な理解を確認する。マークシート方式で出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】 毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。 その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (4/12)	まとめ1 有床義歯技工学	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
2	まとめ2 歯冠修復技工学	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
3	まとめ3 歯科理工学	講義	技工に必要な歯科理工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
4	まとめ4 歯の解剖学	講義	技工に必要な歯の解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
5	まとめ5 有床義歯技工学	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
6	まとめ6 歯冠修復技工学	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
7	まとめ7 歯科理工学	講義	技工に必要な歯科理工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
8	まとめ8 歯の解剖学	講義	技工に必要な歯の解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
9	まとめ9 有床義歯技工学	講義	技工に必要な有床義歯技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
10	まとめ10 歯冠修復技工学	講義	技工に必要な歯冠修復技工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
11	まとめ11 歯科理工学	講義	技工に必要な歯科理工学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
12	まとめ12 歯の解剖学	講義	技工に必要な歯の解剖学に関する事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
13	まとめ13	講義	技工に必要な各教科の重要事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
14	まとめ14	講義	技工に必要な各教科の重要事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
15 (8/23)	まとめ15	講義	技工に必要な各教科の重要事項を総合的に捉えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。

科目名 (英)	課題研究実習Ⅰ Research and Professional PracticeⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	卒業課題研究作品の製作を通して、今までに習得した知識と技術を結集させる。						
科目概要	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作する。						
到達目標	・自ら設定した課題に基づいて、歯科技工物を製作することができる。 ・製作計画を立案し、実行できる。 ・作業模型製作、咬合器装着 症例の下準備状況をチェックしながら製作できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 計画書(レポート)の提出30点、実技試験として模型を適切に装着した咬合器の作品を70点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	歯科技工 アトラス(医歯薬出版)						
特記事項	展示物製作のほか、製作過程のレポートがある。写真撮影も行うこと。作業模型製作、咬合器装着、症例の下準備状況をチェックする。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (5/29)	模型製作と咬合器装着	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br模型製作 咬合器装着 ②PD模型製作 咬合器装着 ③FD模型製作 咬合床製作				
2							
3	模型製作と咬合器装着	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br模型製作 咬合器装着 ②PD模型製作 咬合器装着 ③FD模型製作 咬合床製作				
4							
5	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brワックスアップ 窓開け ②PD設計 維持装置製作・金属床設計 リリーフ ブロックアウト ③FD咬合床製作 咬合器装着				
6							
7	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brワックスアップ 窓開け ②PD設計 維持装置製作・金属床設計 リリーフ ブロックアウト ③FD咬合床製作 咬合器装着				
8							
9	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスブルーイング～埋没 ②PD維持装置 連結子製作・金属床 複印象 耐火模型製作 ③FD前歯部排列				
10							
11	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brスブルーイング～埋没 ②PD維持装置 連結子製作・金属床ワックスアップ ③FD臼歯部排列				
12							
13	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br掘り出し～メタル調整 ②PD人工歯排列・金属床 スブルーイング 埋没 ③FD臼歯部排列				
14							
15 (9/11)							

科目名 (英)	インターンシップⅡ InternshipⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	西村 充剛
		授業形態	演習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	進路指導経験が豊富であり、歯科関連企業との連携も深い教員が、歯科関連企業を招き就職活動に向けた授業を行う。						
目的	現場見学や就業体験および体験発表を通じて、自らの進路決定の参考にする。						
科目概要	歯科技工業務の見学および就業体験を通じて、業界で活躍するために必要な自らの課題について理解する。						
到達目標	・歯科医療専門職として就業するために自らの課題を見つけることができる。						
	・進路決定の準備を具体的にし行動に移すことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 期限を守って提出したレポートを評価する。提出するべきレポートは 職場見学レポート、職場体験レポートとする。 提出日は別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☐ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	就職活動サポートブック(本校オリジナル教材)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、訪問する施設情報をホームページなどで調べることが推奨する。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	レポート作成時に必要な写真を撮影しておく。その際には、様々な施設見学をするため撮影可能か確認を取る。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (5/26)	合同就職に向けての準備	演習	合同就職説明会の流れ、説明会に向けての身だしなみ、拝聴時の態度、拝聴企業決定のポイント等を確認する。
2	合同就職説明会①	演習	学校に歯科技工所や歯科医院、歯科関連企業等を招き、会社説明を拝聴する。全体説明後、各企業のブースへ移動し、個別に説明を受ける。進路決定の手掛かりとする。
3	合同就職説明会②	演習	学校に歯科技工所や歯科医院、歯科関連企業等を招き、会社説明を拝聴する。進路決定の手掛かりとする。
4	合同就職説明会③	演習	学校に歯科技工所や歯科医院、歯科関連企業等を招き、会社説明を拝聴する。進路決定の手掛かりとする。
5	就業体験①	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
6	就業体験②	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
7	就業体験③	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
8	就業体験④	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
9	就業体験⑤	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
10	就業体験⑥	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
11	就業体験⑦	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
12	就業体験⑧	演習	①各職場の始業に合わせて出社。②朝礼、朝掃除等に参加。③一日の実習内容の確認。 ④朝の職場での仕事の流れを知る。⑤体験実習(チェック・修正) ⑥スタッフの仕事の観察する。
13	職場見学会①	演習	①職場の概要・設備を確認する。②職場の業務内容を確認する。③臨床の現場を見る。④スタッフの方の話を聞く。⑤自分の今後の課題を発見する。
14	職場見学会②	演習	①職場の概要・設備を確認する。②職場の業務内容を確認する。③臨床の現場を見る。④スタッフの方の話を聞く。⑤自分の今後の課題を発見する。
15 (9/2)	職場見学会③	演習	見学した企業についてレポートを作成し、情報を共有する。

科目名 (英)	歯科臨床基礎 Fundamentals of Clinical Dentistry	年次	2年	必修科目	実務経験	科目責任者	中台 祐介
		授業形態	演習		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1	(コマ数)			後期
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有した講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科保存治療に不可欠な仮歯、土台、個歯トレーの製作技術を習得する。						
科目概要	歯科保存治療に不可欠な、仮歯の製作、一度は機能を失った歯を再利用を可能にするための歯の土台製作、形態・寸法・表面精度に優れた印象採得を可能にするための個歯トレー製作など、製作を通じてその要点を理解する。						
到達目標	・テンポラリークラウンの製作工程を理解する。 ・個歯トレーの製作工程、使用材料の特性を理解し製作することができる。 ・メタルコアの製作工程を理解し製作することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポート「授業日誌」を20点として100点満点とする。提出日は最終授業日から7日後の16:45までとする。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版）			事前事後学習とその内容	【事前学習】シラバスを確認し、教科書の該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	・配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず持参すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/4)	プロビジョナルレストレーションの製作 (既製樹脂冠を使用)	演習	①プロビジョナルレストレーションを製作する。 ②仮想支台歯形成を理解する。③製作手順を習得する。
2	プロビジョナルレストレーションの製作 (既製樹脂冠を使用)	演習	①プロビジョナルレストレーションを製作する。 ②仮想支台歯形成を理解する。③製作手順を習得する。
3	プロビジョナルレストレーションの製作 (既製樹脂冠を使用)	演習	①プロビジョナルレストレーションを製作する。 ②既製樹脂冠の辺縁を適合させる。③製作手順を習得する。
4	プロビジョナルレストレーションの製作 (既製樹脂冠を使用)	演習	①プロビジョナルレストレーションを製作する。 ②既製樹脂冠の形態修正、研磨をする。③レジン研磨手順を習得する。
5	臼歯部クラウンのワックスアップの練習	演習	臼歯部のフィッシュマウス～クラウンのワックスアップ練習を行う。
6	個歯トレーの製作	演習	①個歯トレーの製作手順を覚える。 ②スパーサーを理解し、個歯トレーの形態修正の仕方を覚える。
7	プロビジョナルレストレーションの製作 個歯トレーの製作	演習	①個歯トレーの製作手順を覚える。 ②スパーサーを理解し、個歯トレーの形態修正の仕方を覚える。
8 (11/8)	完成・提出	演習	プロビジョナルレストレーション、個歯トレーを完成させ提出する。

科目名 (英)	歯科理工学応用Ⅱ Dental Materials Science-AdvancedⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	演習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据え、今まで履修した内容を総合的に習得する。						
科目概要	歯科技工士として必要な知識を講義や試験形式で理解度の確認を行い、知識の定着と理解度を深める。						
到達目標	・専門科目の枠を超え、総合的に考えることができる。 ・理解できない点、疑問点を発見し、それを理解することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点で評価する。卒業試験(有床、修復、解剖、矯正、小児、顎口腔および法規)で評価する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 歯科理工学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	なし						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/7)	まとめ1『合金の融解』『鋳造機』	講義	鋳造用合金の融解に用いる熱源の種類と利用温度、ならびに溶融した合金を鋳型内に鋳込むための各種鋳造機の特徴について理解を深める。
2	まとめ2『鋳造欠陥』	講義	鋳造欠陥を防止するためには、原因を理解する必要がある。 1年次からの鋳造体験を踏まえ、鋳造欠陥のメカニズムと防止対策について理解を深める。
3	まとめ3『合金の熱処理』	講義	技工物に必要な機械的性質を得るため合金に施す溶体化処理、時効硬化処理について理解を深める。
4	まとめ4『金属の加工』	講義	金属の加工が進むにつれ生じる加工硬化と、合金内で起こる結晶の変化について理解を深める。
5	まとめ5『新しい加工法』	講義	CAD/CAMをはじめとした新しい材料加工法、技工物の製作方法について理解を深める。
6	まとめ6	講義	まとめ1～5を踏まえて、出願判定試験に向けて、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
7	まとめ7	講義	まとめ1～6を踏まえて、卒業判定試験に向けて、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。
8 (12/17)	まとめ8	講義	まとめ1～7を踏まえて、国家試験に向けて、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。

科目名 (英)	有床義歯総合実習 Basic Training of denture Techniques	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	歯科技工士として必要な全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の基本技術を習得する。						
科目概要	全部床義歯人工歯排列・歯肉形成のについて180分で完成できるようにトレーニングを行う。実習作品は、評価表を用いて自己チェックやフィードバックを受けることにより、実力を確認し今後の課題を理解する。						
到達目標	全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の技術を練磨し、180分で完成できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」80点、レポート20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
	教科書	最新歯科技工士教本「有床義歯技工学」(医歯薬出版)、「オリジナル実習帳」等			事前事後 学習と その内容	前期に習得した全部床義歯の人工歯排列・歯肉形成の製作手順を実習プリントで確認しておくとうい。	
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (10/5)	全部床義歯排列①〔トライ〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解する。				
2	全部床義歯排列①〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
3	全部床義歯排列②〔トライ〕	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 制限時間100分で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。				
4	全部床義歯排列②〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の排列方法(下顎法)の手順、注意事項について理解する。 全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
5	歯肉形成①〔トライ〕	実習	全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 制限時間内に全部床義歯の歯肉形成を完成させる技工術式を理解する。				
6	歯肉形成①〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
7	全部床義歯排列・歯肉形成①〔トライ〕	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 制限時間130分で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。				
8	全部床義歯排列・歯肉形成①〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形成①〔チェック〕	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
9	全部床義歯排列・歯肉形成①〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 制限時間130分で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
10	全部床義歯排列・歯肉形成②〔トライ〕	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 制限時間120分で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。				
11	全部床義歯排列・歯肉形成②〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形成②〔チェック〕	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
12	全部床義歯排列・歯肉形成②〔チェック〕 蠟堤 準備	実習	全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 制限時間120分で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
13	全部床義歯排列・歯肉形成②〔トライ〕	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 制限時間120分で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。				
14	全部床義歯排列・歯肉形成②〔トライ〕 全部床義歯排列・歯肉形成②〔チェック〕	実習	全部床義歯の正しい排列基準を理解する。 全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 全部床義歯の蠟堤取り付けについて理解する。				
15 (11/29)	全部床義歯排列・歯肉形成②〔チェック〕 全技協認定試験に向けて	実習	全部床義歯の正しい歯肉形態を理解する。 制限時間120分で全部床義歯の排列を完成させる技工術式を理解する。 全技協認定試験に向けて模型の調整、人工歯の確認を行う。				

科目名 (英)	歯冠修復総合実習Ⅰ Comprehensive Training of Restorative DentistryⅠ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有する講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	指定された歯種のワックスアップを決められた時間内で製作する技術を習得する。						
科目概要	蠟型採得の反復練習を通じて形態の再現度を高める。						
到達目標	・設定時間内に主溝、外形を完成することができるようになる。 ・歯列に調和した(豊隆、咬合接触、隣接面接触など)クラウンが製作できる。 ・トレーニングを通して課題を発見し、チェックシートを用いながら修正できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」を80点、レポートを20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)、「オリジナル実習帳」等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】 シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】 実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず準備すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (10/6)	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備15分、Cr①模型A(グレー)ワックスアップ45分、説明&自己チェック20分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
2	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr①フィードバック&修正を行う。 ・Cr②模型B(グレー)ワックスアップ45分、説明&自己チェック20分、の時間内でトレーニング修正できるようになる。				
3	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr②フィードバック&修正30分 ・Cr③模型A(ブルー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
4	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr③フィードバック&修正30分 ・Cr④模型B(グレー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
5	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr④フィードバック&修正30分 ・Cr⑤模型A(ブルー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
6	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑤フィードバック&修正30分 ・Cr⑥模型B(グレー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
7	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑥フィードバック&修正30分 ・Cr⑦模型A(ブルー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
8	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑦フィードバック&修正30分 ・Cr⑧模型B(グレー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
9	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑧フィードバック&修正30分 ・Cr⑨模型A(ブルー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
10	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑨フィードバック&修正30分 ・Cr⑩模型B(グレー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
11	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑩フィードバック&修正30分 ・Cr⑪模型A(ブルー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
12	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑪フィードバック&修正30分 ・Cr⑫模型B(グレー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
13	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑫フィードバック&修正30分 ・Cr⑬模型A(ブルー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
14	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑬フィードバック&修正30分 ・Cr⑭模型B(グレー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				
15 (11/24)	ワックスアップトレーニング	実習	・説明&準備10分、Cr⑭フィードバック&修正30分 ・Cr⑮模型A(ブルー)ワックスアップ45分の時間内でトレーニング、修正できるようになる。				

科目名 (英)	歯冠修復総合実習Ⅱ Comprehensive Training of Restorative DentistryⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				後期
講師紹介	歯科技工士として歯科技工所や大学附属病院での実務経験を有する講師が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	指定された歯種のワックスアップを決められた時間内で製作する技術を習得する。						
科目概要	デッサンの反復練習を通じて、歯牙形態の正確性とデッサンスピードを身に付ける。						
到達目標	・設定時間内に主溝、外形を完成することができるようになる。 ・歯列に調和した(豊隆、咬合接触、隣接面接触など)クラウンを製作できる。 ・トレーニングを通して課題を発見し、チェックシートを用いながら修正できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、実技試験として「作品の評価」80点、レポート20点とする。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」(医歯薬出版)、「オリジナル実習帳」等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】バスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を 読んでおくこと。 【事後学習】実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで 進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	配布プリントはファイルに綴じ、実習時に必ず準備すること。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (12/8)	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
2	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
3	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
4	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
5	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
6	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
7	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
8	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
9	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
10	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
11	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
12	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
13	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
14	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				
15 (2/16)	デッサン＆トレーニング	実習	歯の特徴を理解する。歯の形態を咬合面(切縁)、頬側面、舌側面をデッサンする。 【ポイント】最大豊隆部、咬頭の高さ・位置、固有咬合面、主溝、中心窩・小窩の位置を確認 できるようになる。				

科目名 (英)	歯型彫刻総合Ⅱ Comprehensive Training of Dental CarvingⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	君塚 友見
		授業形態	実習		有		
		時間数	60	授業回数	30	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	2				
講師紹介	海外留学経験があり、国内歯科技工所での臨床経験を有した教員が、歯牙形態の彫刻方法について授業を実施する。						
目的	歯型彫刻の手法を用いて、技工物製作の基本となる歯の形態を細部にわたり製作できるようになる。						
科目概要	歯の形態をデッサンと模刻を繰り返し練習することを通じて理解する。						
到達目標	・歯型彫刻については見本模型を用いず40分以内に指定した歯種の外形、主溝、副溝を再現することができる。 ・歯のデッサンについては、見本模型を用いず15分以内に指定した歯種についての3面の線画を描記できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 作品(各評価の平均値)80点、レポート20点で評価する。提出物の期限は開講日に別途指示する。 ☐ 筆記試験 ☐ 口頭試験 ☒ 実技試験 ☐ 論文 ☒ レポート						
教科書	最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学 (医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	各課題に対しての採点基準はルーブリック評価表などで確認し、必要な手順や知識・技術を確認しておく。		
参考図書	適宜紹介する。						
特記事項	デモンストレーション及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (10/1)	上顎左側中切歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
2	上顎右側中切歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
3	上顎左側犬歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
4	上顎右側犬歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
5	上顎左側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
6	上顎右側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
7	下顎左側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
8	下顎右側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
9	下顎左側第二小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
10	下顎右側第二小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
11	上顎左側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
12	上顎右側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
13	下顎左側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
14	下顎右側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
15	上顎右側犬歯:デッサン 下顎右側第一小臼歯:彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
16	上顎左側中切歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
17	上顎右側中切歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				
18	上顎左側犬歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。				

19	上顎右側犬歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
20	上顎左側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
21	上顎右側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
22	下顎左側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
23	下顎右側第一小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
24	下顎左側第二小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
25	下顎右側第二小臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
26	上顎左側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
27	上顎右側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
28	下顎左側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
29	下顎右側第一大臼歯 デッサン、彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。
30 (2/20)	上顎右側犬歯：デッサン 下顎右側第一小臼歯：彫刻	実習	デッサン・彫刻を模型を見ないで行い、歯型彫刻を完成させる。

科目名 (英)	歯科技工実習総合Ⅳ Training of Dental TechnologyⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	これまでに習得した知識や技能を使用し、課題の製作を通じて技術の向上を行う。						
科目概要	課題の製作を通じて、「スピード」、「正確さ」を磨き、確実な知識と技能を身に付ける。						
到達目標	・歯のデッサン、歯型彫刻で指示された歯種を時間内に正確に再現することができる。 ・矯正歯科で用いるワイヤーの屈曲を指定時間内に製作することができる。 ・就職先の仕事内容に合わせて自力で、作品製作を行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 作品(各評価の平均値)80点、レポート20点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	新歯科技工士教本 歯冠修復技工学(医歯薬出版)				事前事後 学習と その内容	各課題に対しての採点基準はルーブリック評価表などで確認し、必要な手順や知識・技術を確認しておく。	
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (1/11)	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
2	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
3	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
4	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
5	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
6	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
7	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
8	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
9	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
10	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
11	課題製作 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で国家試験(実地)の出題課題を行う。 この実習で提出された作品は成績評価する。製作後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。				
12	課題製作 歯のデッサン・ワイヤー屈曲・歯型彫刻	実習	課題：90分で国家試験(実地)の出題課題を行う。 この実習で提出された作品は成績評価する。製作後は、見本や評価表を用いた自己チェックおよび教員によるフィードバックを行う。				
13	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
14	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				
15 (1/31)	ワイヤー屈曲・デッサン・彫刻	実習	1つの課題を制限時間内に正確に完成させる技術を習得する。 設計線に沿ったワイヤー屈曲、歯の特徴をとらえたデッサンと彫刻を完成までできるようになる。				

科目名	総合歯科技工学Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
(英)	Dental Technology - ComprehensiveⅡ	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	時間数	90	授業回数	45	開講区分	後期
		単位	6				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけでなく、臨床現場で役立つ便利なテクニックも交えた授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据え、今まで履修した内容を総合的に習得する。						
科目概要	歯科技工士として必要な知識を講義や試験形式で理解度の確認を行い、知識の定着と理解度を深める。						
到達目標	・専門科目の枠を超え、総合的に考えることができる。 ・理解できない点、疑問点を発見し、それを理解することができる。						
評価方法	学期に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学期に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 評価は、筆記試験を100点満点とする。卒業試験(有床、修復、解剖、矯正、小児、顎口腔および法履)で評価する。 試験内容は、知識に対する総合的な理解を確認する。マークシート方式で出題する。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	新歯科技工士教本(8科目)(歯歯業出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバス及び教科内容の確認を行うこと。 【事後学習】毎回の授業内で、前回の講義内容の確認小テストを行う。その小テストに向けてポイントを復習を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1 (10/4)	まとめ1 有床義歯技工学・矯正歯科技工学	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
2	まとめ2 歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
3	まとめ3 歯の解剖学	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
4	まとめ4 小児歯科技工学・顎口腔機能学	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
5	まとめ5 有床義歯技工学・矯正歯科技工学	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
6	まとめ6 歯冠修復技工学・歯科技工士関係法規	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
7	出願判定試験に向けて 歯冠修復技工学	講義	出願判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
8	出願判定試験に向けて 顎口腔機能学	講義	出願判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
9	まとめ7 歯の解剖学	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
10	まとめ8 小児歯科技工学・顎口腔機能学	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
11	出願判定試験に向けて 歯科技工士関係法規	講義	出願判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
12	出願判定試験に向けて 歯の解剖学	講義	出願判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
13	出願判定試験に向けて 小児歯科技工学	講義	出願判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
14	出願判定試験に向けて 有床義歯技工学	講義	出願判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
15	出願判定試験に向けて 矯正歯科技工学	講義	出願判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
16	まとめ16 模試練習問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
17	まとめ17 模試練習問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
18	まとめ18 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
19	まとめ19 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
20	まとめ20 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
21	まとめ21 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
22	まとめ22 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
23	まとめ23 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
24	まとめ24 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
25	まとめ25 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
26	まとめ26 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
27	まとめ27 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
28	卒業判定試験に向けて 有床義歯技工学	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
29	卒業判定試験に向けて 矯正歯科技工学	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
30	卒業判定試験に向けて 歯の解剖学	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
31	卒業判定試験に向けて 小児歯科技工学	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
32	卒業判定試験に向けて 歯科理工学	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
33	卒業判定試験に向けて 歯科技工士関係法規	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
34	卒業判定試験に向けて 歯冠修復技工学	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
35	卒業判定試験に向けて 顎口腔機能学	講義	卒業判定試験に向けて講義を行い理解度を深める。				
36	まとめ28 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
37	まとめ29 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
38	まとめ30 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
39	まとめ31 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
40	まとめ32 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
41	まとめ33 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
42	まとめ34 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
43	まとめ35 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
44	まとめ36 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				
45 (2/13)	まとめ37 国家試験対策問題	講義	歯科技工に必要な知識を総合的に授えられているか、練習問題を用いて理解度の確認及び図や写真を用いて解説講義を行い理解度を深める。				

科目名	総合歯科技工実習	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	彦根 幸子
(英)		授業形態	実習		有		
		Training of Dental Technology -Comprehensive	時間数	30	授業回数	15	開講区分
学科・コース	歯科技工士科Ⅰ部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	総合的に歯科技工技術を習得する。						
科目概要	・模型製作を通して、石膏操作の確認、咬合器装着をする。 ・指定された課題作品を製作する。						
到達目標	・臨床的な模型製作ができる。 ・決められた時間内に指定された実習作品を完成させることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 実技試験として「作品の評価」を90点、レポートを10点で評価する。作品は認定試験模型とし、提出日は別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	オリジナル実習帳等			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (12/6)	課題製作-1 全部金属冠の蠟型採得	実習	課題:60分で全部金属冠の蠟型採得を行う。 この実習で提出された作品は出願判定試験として成績評価する。 製作後は、評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
2	課題製作-2 総義歯人工歯排列・歯肉形成	実習	課題:2時間30分で総義歯人工歯排列・歯肉形成を行う。 この実習で提出された作品は出願判定試験として成績評価する。 製作後は、評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
3	課題製作-2 総義歯人工歯排列・歯肉形成	実習	課題:2時間30分で総義歯人工歯排列・歯肉形成を行う。 この実習で提出された作品は出願判定試験として成績評価する。 製作後は、評価表を用いた自己チェック、採点担当者による総評ならびにフィードバックを行う。
4	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
5	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
6	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
7	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
8	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
9	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
10	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
11	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
12	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
13	実習トレーニング	実習	国家試験に向けた時間設定で、3課題を行い時間配分の確認と完成度の向上を目指す。
14	実習トレーニング(振り返り)	実習	国家試験当日の実技試験の振り返りを行う。
15 (2/19)	実習トレーニング(振り返り)	実習	国家試験当日の実技試験の振り返りを行う。

科目名 (英)	課題研究実習Ⅱ Research and Professional PracticeⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	実習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科技工士科 I 部	単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	卒業後の歯科技工業務を見据えて専門科目の枠を超え、今までの学びを総合的に復習することを目的とする。						
科目概要	習得した知識や技術を検証し、卒業後の希望進路を踏まえた今後の課題設定ができる。製作手順を計画し、計画的に粘り強く作品を製作できることを目指す。						
到達目標	卒業後のキャリア形成を踏まえ、既習知識と技術を用いて自ら設定した課題作品を計画的に製作する。 製作物に応じて使用する材料yの特性を理解する。 作品の製作と平行してレポート作成を進め、製作過程と設定した課題について検証することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 計画書(レポート)の提出30点、実技試験として模型を適切に装着した咬合器の作品を70点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を読んでおくこと。 【事後学習】実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで進めておくこと。		
参考図書	歯科技工アトラス(医歯薬出版)						
特記事項	展示物製作をするだけでなく、過程をレポートにする。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (10/16)	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br掘り出し～メタル調整 ②PD人工歯排列・金属床 掘り出し 形態修正 ③FD歯肉形成
2	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brメタル調整～フレーム研磨 ②PD歯肉形成 金属床 形態修正 ③FD歯肉形成
3	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Brフレーム研磨 ②PD歯肉形成 金属床 フレーム研磨 ③FD歯肉形成
4	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD歯肉形成 金属床 形態修正 ③FD歯肉形成
5	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD歯肉形成 金属床 フレーム研磨 ③FD歯肉形成
6	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD歯肉形成 金属床 フレーム研磨 ③FD歯肉形成
7	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD埋没・金属床 人工歯排列 ③FD埋没
8	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD埋没・金属床 人工歯排列 ③FD埋没
9	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD埋没・金属床 人工歯排列 ③FD埋没
10	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD埋没・金属床 人工歯排列 ③FD埋没
11	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD埋没・金属床 歯肉形成 ③FDレジン填入
			※各課題に合わせた手順で製作する。

12	課題研究作品の製作	実習	①Cr.Br歯冠色材料形態修正 ②PD埋没・金属床 埋没 ③FDレジン填入
13	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料形態修正 ②PD埋没・金属床 歯肉形成 ③FD掘り出し
14	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料形態修正 ②PD埋没・金属床 歯肉形成 ③FD掘り出し、形態修正
15 (11/14)	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作する。 ①Cr.Br歯冠色材料形態修正 ②PD埋没・金属床 歯肉形成 ③FD形態修正

科目名 (英)	課題研究実習Ⅲ Research and Professional PracticeⅡ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中台 祐介
		授業形態	実習		有		
学科・コース	歯科技工士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	1				
講師紹介	歯科技工士として大学附属病院での臨床経験も有する教員が、その豊富な経験を活かし、歯科技工に必要な基本的な知識や技術だけではなく、臨床現場で役立つテクニックも交えた授業を行う。						
目的	卒業課題研究作品の製作を通して、今までに習得した知識と技術を結集させる。						
科目概要	卒業課題研究作品を完成させ、レポートを通じて設定した課題と目指した技術の向上について検証を行う。また、製作で得られた内容についてプレゼンテーションで広く共有を行う。						
到達目標	・実施計画に沿って作品を製作、完成させることができる。 ・製作過程と設定した課題について検証したレポートを制作することができる。 ・作品紹介のプレゼンテーションを行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100～90点A(4.0)、89～80点B(3.0)、79～70点C(2.0)、69～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()内はGPA。 欠席日数が学則に定める授業時間の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 レポートの提出30点、作品(咬合器)60点、発表10点で評価する。提出日は開講日に別途指示する。 □ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 ■ レポート						
教科書	各専門科目の教科書及び実習帳、ほか			事前事後 学習と その内容	【事前学習】シラバスを確認し、教科書や実習プリントの該当部分を 読んでおくこと。 【事後学習】実習で遅れた場合は、次回授業までに指示した工程まで 進めておくこと。		
参考図書	歯科技工アトラス(医歯薬出版)						
特記事項	展示物はその過程を記したレポートと共に展示する。左記を念頭に、 製作すること。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1 (2/20)	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD流ろう・金属床 咬合調整 歯肉形成 ③FD流ろう 填入 重合
2			
3	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br歯冠色材料築盛 ②PD流ろう・金属床 咬合調整 歯肉形成 ③FD流ろう 填入 重合
4			
5	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br形態修正 ②PD掘り出し 咬合調整・金属床 コア製作 ③FD再装着 削合
6			
7	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br形態修正 ②PD掘り出し 咬合調整・金属床 コア製作 ③FD再装着 削合
8			
9			
10	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Br形態修正 ②PD形態修正 ・金属床 レジン流し込み ③FD削合
11			
12	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD荒研磨・金属床 形態修正 ③FD形態修正
13	課題研究作品の製作	実習	※各課題に合わせた手順で製作できるようになる。 ①Cr.Brメタル調整～研磨 ②PD荒研磨・金属床 荒研磨 ③FD中研磨
14	レポート作成	実習	・卒業課題研究作品のレポートをまとめる。 ・プレゼンテーションの準備を行うことができるようになる。
15 (2/29)	レポート作成	実習	・卒業課題研究作品のレポートをまとめる。 ・プレゼンテーションの準備を行うことができるようになる。